

各位

2019年6月26日  
公益財団法人 日本英語検定協会

— CBT方式では受験できない、合理的配慮が必要な障がいのある受験者様に受験いただきます —

## 2020年度「英検 2020 2 days S-Interview」についてのお知らせ



公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区、以下、「英検協会」）は、このたび、「大学入試英語成績提供システム」に対応する、実用英語技能検定（以下、「英検」）の新方式の一つであります、「英検 2020 2 days S-Interview」（以下、「S-Interview」）の2020年度の実施につきまして、以下のとおり決定いたしました。まずは、その決定事項と、その決定に至った英検協会の考えをお知らせ申し上げます。

なお本事業につきましては、既に5月下旬には決定しており、英検協会としましては、受験者様、その保護者様、そして高校の先生方や大学の入試関連のご担当者様をはじめとする関係各位に、以下、S-Interviewの2020年度の実施方法につきまして英検協会の考え方はご報告させていただきたいところでありましたが、「大学入試英語成績提供システム」に関わる試験ですので、まずは6月5日、独立行政法人 大学入試センター（以下「センター」）様にこの決定事項をご報告申し上げます。同日、同センター様から、大学入試英語成績提供システム運営委員会にて正式な判断が下される、との回答を頂戴した為、その結果はいつまでに弊会に届くのかをお伺いしたところ、残念ながら、月末の現時点におきましてもその期日はご回答いただけておりません。

このように時間だけが経過し、関係各位にご案内が遅延するご迷惑を顧み、本リリースにおきまして、まずは英検協会としての2020年度のS-Interviewの実施の考え方や現状の状況につきましてお知らせ申し上げます。

以上のとおり、同センター様からの結果の報告いかんによっては実施できない可能性もありますことをここに報告申し上げます。その際は、その結果とその理由も含めまして速やかに関係各位にご報告させていただきます。

### 【決定事項】

- 2020年度、英検の新方式は、CBT方式（「英検 CBT」・「英検 2020 1 day S-CBT」（以下、「1 day」））を中心に実施し、「S-Interview」につきましては、CBT方式では対応することのできない、吃音者を含む、点字やテロップ、筆談等の合理的配慮が必要な障がいのある受験者様（高3生・既卒生）を対象に実施させていただきます。
- したがって健常者の皆様、また、英検協会が「S-Interview」での受験を認めた以外<sup>※1</sup>の合理的配慮が必要な受験者様につきましては、「英検 CBT」、もしくは「1 day」のどちらかのCBT方式で受験いただきます。
- 「S-Interview」は、従来型の英検と同様、約400の全国の公開会場の中の、特別措置に適した会場で実施いたします。なお地域等、申込状況によっては別会場を新設し、そこで実施することも検討しています。
- 試験日は、従来型の英検と同様の日程とします。※2020年度の実施日程につきましては、今暫くお待ち願います。
- 「S-Interview」につきましては、インフルエンザや感染症の発症等、やむを得ない事情で試験日に受験できなかった受験者様におかれましては、センター試験同様、特定の場所（未定）で、別日程で再試験を実施する予定です。

※詳細につきましては、決定次第、速やかにご案内申し上げますので、今暫くお待ち願います。

これにより、合理的配慮が必要な障がい等のある全国の受験者様につきましては、CBT方式（「英検 CBT」・「1 day」）での特別措置対応で、またCBT方式では、形式上受験が叶わない受験者様には、「S-Interview」で受験いただくことで、全国のほぼ全ての皆様に網羅的に受験いただけるようになります。

なお<sup>※1</sup>障がいの区分によりまして、CBT方式で受験いただくか、「S-Interview」で受験いただくか変わってまいります。その線引きは一概に判断することが難しいところありますので、お申し込みの際に受験者様に診断書等をご用意いただき、それをもとに英検協会が提携している合理的配慮に造詣の深い有識者の先生方のご意見も伺いながら、受験者様と協議の上で決定させていただきたく存じます。これらの詳細も募集要項を決定しましたら、速やかにお知らせ申し上げます。

<2020 年度 実施方式>

\*2018 年 3 月に発表された、「大学入試英語成績提供システム」への参加試験の実施概要から変更となる箇所を赤字で記しています。

項目	英検新方式			TEAP		IELTS
	CBT方式			TEAP	TEAP CBT	IELTS
対象受験者	制限なし	高校3年生 (既卒生含む)	高校3年生 (既卒生含む) の内、 障がい等のある受験者への合理的配慮で、CBT方式での措置以外の対応を要する方	高校2年生以上	高校2年生以上	制限なし
実施方式	RL	CBT	PBT/CBT (2019) ※2	PBT	CBT	PBT
	W	CBT	PBT	PBT	CBT	PBT
	S	吹き込み	吹き込み	対面式	吹き込み	対面式
日程・実施回数	常時実施※3 4-12月に「成績提供システム」に提出できる受験回は2回まで		6-7月、10-11月 年間2回※4	4-12月に3回	4-12月に3回	4-12月に22-24回
受験日数	1日	1日	2日	1日	1日	1日
会場	テストセンター		公開会場 (約400か所)	公開会場	テストセンター	公開会場
会場数	47都道府県に配置※3 各都道府県に1か所以上		47都道府県に配置	全国10ブロックで実施 北海道・東北・関東・甲信越・北陸・中部・関西・中国・四国・九州/沖縄	全国10ブロックで実施 北海道・東北・関東・甲信越・北陸・中部・関西・中国・四国・九州/沖縄	16都市 (開催都市以外の特別会場受験にも対応予定)
対象級 (CEFR段階)	準1級~3級の4グレード A1~B2※5	準1級~3級の4グレード A1~B2	1級~3級の5グレード A1~C1	A2~C1	A2~C1	B1~C2
検定料 (税込)	1級	—	16,500円	15,000円	15,000円	25,380円
	準1級	9,800円※5	9,800円			
	2級	7,500円	7,500円			
	準2級	6,900円	6,900円			
	3級	5,800円	5,800円			
障がい等のある 受験生への配慮	あり※6	あり※6	あり※6	あり	なし	あり
視覚	全盲	—	【点字】	【点字】		RLW試験：【点字】・【A4墨字】・【時間延長】・【オプスコープ】
	障害等級が6級以上の視覚障がい者	【虫眼鏡、ルーペの持込み使用】(※電子ルーペの場合は拡大/ライト機能のみ使用可)	【拡大墨字A3】・【普通墨字A4】・【一般墨字 (オプスコープ使用)】	【拡大墨字A3】・【普通墨字A4】・【オプスコープ】		S試験：【点字】・【拡大墨字】
聴覚	上記以外の視覚障がい者	【座席配慮】(試験教室の出入り口付近の座席)	RLW試験：【文字解答】 S試験：【優先受験】	RLW試験：【文字解答】 S試験：【優先受験】		
	障害等級が6級以上の聴覚障がい者	【補聴器の持込み使用】	L試験：【テロップ】・【強音放送】 S試験：【筆談】・【FC+口話】	L試験：【座席配置】・【免除】・【強音放送】 S試験：【免除】・【FC+口話】		【科目免除】・【読書】
聴覚	上記以外の難聴者		RLWS：【座席配置】 S試験：【大声】	L試験：【座席配置】 S試験：【大声】		
	障害等級が4級以上の上肢障がい者	—	RLW試験：【チェック解答】・【タブレットPC解答】 S試験：【優先受験】	RL試験：【口述解答】・【チェック解答】 W試験：【免除】・【拡大解答用紙】・【PCIによる解答】 S試験：【優先受験】	「障がい等のある受験者への合理的配慮」は、TEAP (PBT) で対応	
肢体不自由	上記以外の上肢障がい者	—	RLW試験：【チェック解答】 S試験：【優先受験】	RL試験：【チェック解答】 W試験：【拡大解答用紙】 S試験：【優先受験】		【時間延長】 【座席配慮・車椅子での受験】
	下肢障がい者 (車椅子)	【車椅子での受験】 【座席配慮】(試験教室の出入り口付近の座席)	RLW試験：【一般と同一】 S試験：【優先受験】	RLW試験：【一般と同一】 S試験：【優先受験】		
その他	音声言語障がい (吃音症・器質性・運動障がい性・その他)	RLW試験：【通常受験】	RLW試験：【通常受験】 S試験：【筆談】・【発話への配慮】	S試験：【免除】・【発話への配慮】		Examinerへ事前に情報を共有。受験者を焦らせない配慮をする。
	病弱・発達障がい・その他	【車椅子での受験】 【座席配慮】(試験教室の出入り口付近の座席) 【「イヤーマフ」(雑音遮断)の持込み使用】	RLW試験：【一般と同一/別室受験】 S試験：【優先受験】	RLW試験：【座席配慮】・【時間延長】・【別室】 S試験：【優先受験】		【時間延長】

※2: 2019 年度は例外措置対応として RL は CBT 方式としましたが、2020 年度は申請時のとおり、PBT 方式で実施いたします。

※3: 「英検 CBT」・「1 day」のいずれか、もしくは両方は未定。

※4: 「S-Interview」につきましては、インフルエンザや感染症の発症等、やむを得ない事情で当該実施日に受験できなかった受験者様は、センター試験同様、特定の場所 (未定) で、別日程で再試験を実施する予定です。

※5: 「英検 CBT」の準 1 級の実施は 2020 年度については未定。

※6: 障がいの区分等によっても CBT 方式か、「S-Interview」で受験いただくか変わるかと存じます。それにつきましては、お申込み時に受験者様に診断書をご用意いただく等をお願いし、英検協会が提携している合理的配慮に造詣の深い有識者の先生方のご意見も伺いながら、受験者様と協議の上で決定させていただきたく存じます。

## <決定に至った理由>

### 【前提】-「大学入試英語成績提供システム」に対する英検協会の姿勢-

・英検協会は、「大学入試英語成績提供システム」で採用された、英検の新方式につきまして、これまで長きに渡り（従来型の）英検の実施運営で培ってまいりました経験とノウハウを生かし、全国の受験者様にできる限り公平で厳正なる試験をご提供させていただくことを目指します。

・また英検協会としましては、大学入試の本質とは、受験者様各人が、将来を見据えて志望大学を決定し、その志望大学の入試要件と、得意・不得意、検定料、それに会場エリア等、保護者様とご相談の上で総合的にご判断なされ、受験すべき試験を受験者様ご自身で決定するものと考えます。したがって、高等学校（またはその先生方）にそのご選択を委ねるものではないものと考えます。こうした考えに基づき、英検協会としましては、高等学校（またはその先生方）に、英検の各新方式の受験者様の受験意向の調査を事前にお願ひすることはいたしません。実施運営団体としての責任のもとに、高等学校（またはその先生方）にできる限り責任やご負担を強いることのないように尽力してまいります。

以上の前提となる考えのもと、以下の理由から本事項の決定に至りました。なお先の5月14日付にリリースいたしました、CBT方式の決定事項<sup>※7</sup>につきましても同様に、以上の考えのもとでありますことを、改めてここでお伝えさせていただきます。

※7:【プレスリリース】2020年度 英検新方式 実施会場における決定事項のお知らせ  
([https://www.eiken.or.jp/eiken/info/2019/pdf/20190514\\_pressrelease\\_2020testcenter.pdf](https://www.eiken.or.jp/eiken/info/2019/pdf/20190514_pressrelease_2020testcenter.pdf))

### 【CBT方式（「英検 CBT」・「1 day」）を柱とする理由】

「大学入試英語成績提供システム」に対応する英検新方式の中の「S-Interview」のスピーキングは、面接官が、受験者と対面で行う面接試験です。平成29年11月1日付、大学入試センター理事長裁定の「大学入試英語成績提供システムの参加要件」、第4.9（2）におきまして、採点の公平性・公正性を確保するため、受験生の所属高等学校等の教職員が採点に関わらないこと、との記載がございます。

英検協会としましては、先の前提のとおり、「全国の受験者様にできる限り公平で厳正なる試験実施をご提供申し上げる」ことを一義に掲げ、「大学入試英語成績提供システム」で採用された、各種、英検の新方式の最適な実施運用を検討してまいりましたが、この考えと要件とを照らし合わせますと、要件を満たしても、人を介する試験である、「S-Interview」は、面接官が前任校で受験者の先生だったこともあり得、過去に遡れば両者がどこかで面識がある可能性もあり、その有無は特定できません。したがって、公平性、厳正性で優位な CBT 方式（「英検 CBT」・「1 day」）の試験を「大学入試英語成績提供システム」の柱に据えることを決定いたしました。

さらに、昨今、教育分野におきまして、文部科学省の主導のもと、教育の ICT 化<sup>※8</sup>が急ピッチで推進されています。こうした背景を受け、英検協会としましては、「大学入試英語成績提供システム」での英検は、CBT 方式を積極的に展開していくことで、公益財団法人として、我が国が推進する、教育の ICT 化の実現に貢献したく存じます。

※8：第3期教育振興基本計画（抜粋）  
([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/07/20/1407394\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/20/1407394_1_1.pdf))

### 【「S-Interview」を特別措置対応とする理由】

一方で、CBT方式の試験は、健常者の受験者様に対しましては公平性、厳正性の担保はできますが、吃音者を含む、点字やテロップ、筆談等での受験が必要な受験者様には、CBT方式では対応しきれない限界があり、英検協会としましては、試験の公平性、厳正性の観点で、CBT方式だけで試験を行うことに課題を見出し、CBT方式でカバーしきれない受験者様への対応についての検討を進めてまいりました。

そこで、これまで長きに渡り試験運営をおこなってまいりました、従来型の英検における特別措置対応の知見とノウハウを生かし、「S-Interview」は、リーディング・リスニング・ライティングの不合格者も別日のスピーキングの面接試験に進め、それ以外は、従来型の英検と違いがないことから、従来型の英検で既に実施している、吃音者を含む、点字、テロップ、筆談等を要する受験者様には、「S-Interview」で受験いただくことにいたしました。

それにより、合理的配慮が必要な障がい等のある、おおよその受験者様は、英検の新方式（「英検 CBT」・「1 day」・「S-Interview」）のいずれかで受験いただけるようになります。また「S-Interview」の受験者様には、従来型の英検と同じ実施日で、約400の全国の公開会場の中の特別措置に適した会場で受験いただけます。なお地域等、申込状況によっては別会場を新設し、そこで実施することも検討しています。

以上、合理的配慮が必要とされる障がい等のある受験者様に、できる限り、「受験免除」の対応ではなく、一人でも多く受験いただける機会の創出をおこなう必要性を見出し、「S-Interview」は、CBT方式では対応しきれない、吃音者を含む、点字、テロップ、筆談等の合理的配慮が必要な受験者様に受験いただくことにいたしました。

## 【「S-Interview」の課題への対応につきまして】

前述のとおり、人が介在する試験である、「S-Interview」は、面接官と受験者との面識の有無の特定が難しい課題がございます。そのため、採点の公平性の担保ができません。したがって、その課題を解決すべく、英検協会としましては、「S-Interview」で受験いただく受験者様の採点は、先のとおり、大学入試センター理事長裁定の「大学入試英語成績提供システムの参加要件」に従い、まず面接官は受験者様の現在所属の高等学校等の教職員を避け、さらに万全を期し、TEAP と同様、その面接官だけではなく複数の採点者も採点することといたします。

一方、CBT 方式で受験される皆様の中には、「S-Interview」で受験したいと希望される方々も多くいらっしゃるかと存じます。それにつきましては、英検協会としましても前向きに検討してまいりましたが、残念ながら、その場合は、前述のとおり採点の公平性を追求するため、面接官以外に複数の採点作業をおこなう人件費等の費用が増大し、「S-Interview」の検定料が TEAP の受験料（15,000 円（税込））と同等、またはそれ以上に跳ね上がる恐れがございます。それは全国の受験者様に不利益を被る度合いが大きいと判断し、英検協会としましては、前述のとおり、CBT 方式ならではの公平性と厳正性でのメリットと、CBT 試験の推進により、我が国の教育の ICT 化実現に寄与することを最優先とし、それは認めないことといたしました。

## 【「S-Interview」の最上位級は 1 級、CBT 方式（「英検 CBT」・「1 day」）は準 1 級の違いにつきまして】

「S-Interview」は 1 級が受験でき、一方で CBT 方式（「英検 CBT」・「1 day」）の各試験は 1 級が受験できないことから、「S-Interview」の受験対象者である、吃音者を含む、点字、テロップ、筆談等を必要とする障がいのある受験者様と、健常者を含む CBT 方式で受験される受験者様とは、1 級の受験可否による公平性に問題があるところのご指摘をなさる皆様も多くいらっしゃるかと存じます。

よって英検協会としましては、先のとおり、厳正さにおきまして人を介する試験より優位な CBT 方式の試験で、当初は 2020 年度中に 1 級の導入も検討してまいりました。しかしながら、「大学入試英語成績提供システム」を採用する全国の国公立大学様の入試動向を確認いたしますと、1 級に準ずる CEFR の C1、もしくは B2 レベルを出願基準としている大学様は今のところないことから、1 級を新たに導入し全国に会場を設置しても、受験者様は限りなく少ないものと思われまます。

こうした状況下におきまして、「大学入試英語成績提供システム」に対応する試験で、英検 1 級に準ずる CEFR の C1、もしくは B2 レベルの測定を望む受験者様には、2 頁目の〈表〉のとおり、TEAP は、受験料が 15,000 円（税込）で、「S-Interview」の検定料の 16,500 円（税込）よりも安価なことから、こうした受験者様には、TEAP を受験いただくことを英検協会としてはお勧め申し上げ、2020 年度につきましては、ひとまず CBT 方式での 1 級の導入は見合わせることにいたしました。なお 2021 年度、出願に C1、もしくは B2 レベルを求める大学様が増えてまいりましたら、改めまして CBT 方式の試験のいずれか、もしくはどちらの試験にも 1 級の導入を検討していきたく存じます。

一方、「S-Interview」は 1 級が受験できることから、本来は CBT 方式で受験なさるべき受験者様の中で 1 級受験を希望される方につきましては、「S-Interview」で 1 級を受験させたいではないか、といったお考えもあるかと存じます。それにつきましても検討いたしました。「S-Interview」で受験したい、もしくは CBT 方式で受験したい、こうした受験者様のご希望は様々であり、もしかしますと幼少期から慣れ親しんでいる従来型の英検と変わらない、「S-Interview」で受験したい、と思われる受験者様は多くいらっしゃるかもしれません。そう考えますと、1 級に準ずる CEFR の C1、もしくは B2 レベルを出願基準としている国公立大学様が今のところない状況で、CBT 方式に 1 級がないという理由で、1 級受験を希望される受験者様だけを「S-Interview」で受験することができるというのは、ほとんど希望者がいないことが予想できる中で、いかにもってつけた対応といえ、英検協会としましては、これは全受験者様に公平であるとは言い難いものと判断いたしました。では、各級問わず、CBT 方式で受験すべき対象の受験者様の中で、「S-Interview」での受験を希望なさる受験者様につきましては、全て「S-Interview」で受験いただいてもよいことも検討いたしました。これにつきましては、【「S-Interview」の課題への対応につきまして】の記載のとおり対応を講じる必要があり、しかも「S-Interview」での受験を希望なさる受験者様が多ければ多いほど、複数による採点に要する人件費は莫大で、それにより検定料の高騰に拍車をかける事態を招きかねず、それは受験者様にとっての最善策とは言い難いと判断いたしました。

さらに、「大学入試英語成績提供システム」に関係なく、英検 1 級の資格を取得したいという受験者様がおられましたら、従来型の英検は、全国の多数の私立大学様で入試用に既にご活用いただいております。しかも 1 級の検定料がより安価な 9,500 円（税込）であることから、こうした受験者様には、従来型の英検を受験いただきますことを英検協会としてはお勧め申し上げます。

以上、今後の決定事項につきましては、決定次第、順次 皆様に情報共有させていただき所存でございますので、それまで今しばらくお待ちいただきますよう、謹んでお願い申し上げます。